

くまがや自治連だより

# ひろば

第17号

平成27年3月発行



撮影協力：わらしべの里共同保育所  
(熊谷市善ヶ島)

地域の皆様が  
集える場所

熊谷市自治会連合会副会長  
出井哲司

自治会の活動をより活  
発なものにするには、活  
動拠点を整備し、皆が集  
える場所を作ることが大  
切だと思います。

昨年私の銀座地区では、  
長年の懸案事項であった  
社務所（集会所）を無事  
に建設することができま  
した。銀座地区の皆様にご  
理解ご協力を頂き、心  
より感謝しております。  
建設にあたり、各町内別  
に説明会を開きました。  
建設に対する賛否を問  
うと共に、皆様からの意  
見を尊重し、社務所建設  
実行委員会の皆様と協議  
しながら建設を進めまし  
た。資金面でも、地区の  
皆様から奉賛金を頂き、  
企業様からも快くご賛同  
を頂くことができました。  
集会所はたくさんの人  
が集い、笑顔が溢れ、地  
区の皆様の心の拠り所と  
なる施設です。私たちの  
子供世代、孫世代へと末  
永く利用し続けられるよ  
う、地域全体で大切に管  
理していくことが重要だ  
と思います。

# ◆秦自治会連合会◆

会長 尾崎 利雄

秦地区は熊谷市の北東部に位置し、15地域の自治会により「秦自治会連合会」が組織されています。自治会加入戸数は915戸であり、99班の編成となっています。

専業農家は減少したものの、肥沃な土地で生産される農産物は、米麦をはじめ、ネギ・ニンジン等の野菜を中心に広く県内外に出荷されておりま

## 敬老会

連合自治会の重要な事業のひとつに敬老会の開催があります。昨年は9月15日の敬老の日に実施し、83名の出席により盛大に行われました。

当日は地元の皆様を中心に結成された6名の女性メンバーによる素晴らしい大正琴の演奏とともに、懐かしい童謡等を参加者全員で歌いました。更に、秦小学校の児童によるこころ温まる作文の朗読などを拝聴し、楽しいひとときを過ごしました。

## エコ・リサイクル活動

下宿自治会では、昨年7月に地域内の防犯灯を全てLED化しました。これは、今年度より新設された防犯灯の補助金に関する無利子貸付制度を活用し、地域内の防犯灯の総管理数13の全てに適用したものです。これにより、防犯灯の維持管理費用が軽減できるものと期待しています。

また、荒宿・下宿自治会では、年間2〜3回の頻度で資源の再利用を目的として、新聞紙・段ボール・金属類の回収を行い、その売却金を自治会活動の運営費用に充当しています。



敬老会の様子



エコ・リサイクル活動

## トピック(駅伝大会連続出場)

依瀬自治会は、毎年1月に開催される熊谷めぬま駅伝大会に25回連続出場を果たしております。一般男子の部に第4回から参加しています。コースの変更に伴い、中継所が地元の荻野吟子記念館となったことから、近年ではコーヒーマスター・甘酒・麦茶などを出場選手や応援される方々、競技関係者に振る舞い、好評を得ています。

## 秦地区のおすすめスポット

日本で最初の公認女医として知られる荻野吟子生誕之地記念公園は、利根川堤防下にあります。この施設には、記念碑や吟子女史の銅像・遺品等が展示されています。昨年春からゆうゆうバスの乗り入れも始まり、来場者も増加しているようです。

秦地区北部を流れる利根川の河岸には、葛和田渡船場があります。対岸の群馬県千代田町まで小型船舶を使って約10分で往来できます。この渡船場は元和二年(1616年)徳川幕府が利根川横



スカイスポーツフェスタ 2014

断用に設けたものです。最近では、テレビ番組で取り上げられる機会も多く、乗船無料と併せて、地域内の人気観光スポットです。  
葛和田のあばれ神輿は、熊谷市指定無形民俗文化財として、例年7月下旬の日曜日にその勇壮な姿を見ることが出来ます。特に、利根川に神輿を入れての「川もみ」は、祭禮一番の盛り上がりとなり、見物客の大きな喝采が湧き上がります。  
また、同じ利根川河川敷には、開設50年を誇る妻沼グライダー滑空場があります。飛行回数や滑空時間が日本一であるこの滑空場では、日本学生選手権大会をはじめ、数多くの大会が開催されています。昨年の10月には「埼玉スカイスポーツフェスタ2014」が初めて開催され、グライダーの体験搭乗や熱気球の体験浮上などで、多数の来場者が空のスポーツを楽しむことができました。

## ◇男沼自治会連合会◇

会長 奈良原 壯徳

365自治会を擁する熊谷市広しといえども、道路を境に他県と接している自治会は当男沼自治会連合会のみではないでしょうか？

カーナビが普及しはじめた当初は、母屋は埼玉県、物置は群馬県かな？などと冗談ともとれる会話が交わされていた男沼自治会連合会は、上小島、下小島の2自治会を利根川の北岸に、男沼、妻沼台、出来島、間々田の4自治会を利根川の南岸に計6自治会をもつて活動を続けています。上小島地区より南西へ約一キロの堤防上にはこんな所になぜ！と思えるような場所に埼玉県と熊谷市の標識が設置されています。

利根川の下流に向かい左手に上小島、下小島地区があります。利根川の大きな流れを挟んで右手には間々田の集落、やや下って出来島、男沼、妻沼台の集落が連なっています。男沼地区を二分した利根の流れは、遠い昔どのような変化をくり返しながら現在に至ったのか大いに興味を覚えさせられます。



埼玉県と熊谷市の境の標識

## 校区連絡会



出来島小島の役員を先頭に入場行進

かつての男沼村は、出来島裏の利根の川岸より上小島へと通じていた渡し舟の往来により成り立っていたと思われます。

昭和30年代迄に何回となく繰り返されてきた水害に大きな痛手を負ってきた小島地区は、その後の河川改修により大和芋名を上げ、全国的に知られるようになりました。しかし、ここ数年児童数の大幅な減少に

より、小島小学校・中学校は休校状態になっています。一部は男沼小学校へ、一部は群馬県太田市の学校へと通学しているのが現状です。また、地域の活動については、出来島地区とチームを組み、間々田地区、男沼地区、台地区と活動、交流を深めています。

「あついで男沼、人情あつく和と絆」という連絡会発足当時のスローガンを忘れることなく、とれたぞ集会、桜まつり、夏祭りなど子供達の思い出に残る催し物であってほしいと地区民をあげて活動しています。

## 男沼という地名の由来



男沼地区体育祭

その昔、利根川が乱流していた頃、一つの高台を挟んで二つの大きな沼があり、下の沼には女体様が祀ってあったので女の沼（現在の妻沼）、上の沼には男体様が祀ってあったので男の沼、男沼といわれるようになったのがはじまりとされています。男体様と女体様は時々お会いになり、何事か語り合い、お休みになられていた所が現在の妻沼台の白山様だったとのこと。男沼の天神様には、古い石宮の男体様が現在も合祀されています。

男沼、俗称おどろまは低床地のため利根川の氾濫するたびに一面泥沼と化したことから、おとこ沼、泥沼、おどろまといわれるようになったと伝えられています。現在の子供達には通じなくなっている言葉かとは思いますが、遠い昔の男沼を語るには、どうしても次の世代へと語り継ぐべき話の一つかと思えます。

※昭和62年5月 長勝寺前任職岩上寛了上人発行の「お寺だより」を参考

## ◇活動紹介 板井自治会◇

会長 飯島 照雄

板井自治会は会員数約250名の構成員で成り立っています。執行部は会長1名、副会長3名、班長22名です。協力団体として「祭り囃子保存会」や「若人連合会」をはじめとする九つの協力団体が地域を盛り上げてくれています。主な活動を紹介します。行政の指導による530運動や敬老会の他に、5月には子供たちを集めて「マス掴み大会」を開催します。協力団体の一つ「釣り愛好会」が主体となり、マスの準備や会場整備を行ないます。場所は出雲乃伊波比神社前の和田川を、木材とシートを使用して20〜30cmの深さになるよう堰き止めて、約50mの生簀を造ります。子供達が安心してマスを追い掛け回せるように、川底のコケや岸の草取りをして環境を整えます。今年度は約50名位の親子連れが集まり、ワイワイ、キャーキャーしながら楽しそうに追い掛け回し、50kg放流したマスも、40分位で捕獲しつくしました。



マス掴み大会



八坂祭

7月には八坂祭が催されます。天王様とも言われ、諸病追放の行事です。板井地区内から互選された「神社総代」「若衆総代」と呼ばれる若人が中心となり進められ、祭り囃子保存会が笛太鼓で祭りを盛り上げます。作業は宮司の手配から、山車の道路使用許可申請、寄付金集め、万灯花作りなど多岐にわたり、4月にはスタートして漏れの無いように進めます。山車やお神輿の飾り付け、ロープを使う担ぎ棒の取り付けに、諸先輩の技術指導が頼りになります。祭りが近づくと、祭り囃子の練習に熱が入り、笛太鼓の音が夜遅くまで近隣に響き渡ります。曲目はヒバリ囃子、馬鹿囃子などで、ヒバリが飛び立ち、舞い踊る様子を表したヒバリ囃子がよく演奏されます。神輿担ぎには若人連合があたり、神社前のアーチ状の八雲橋を渡り、板井研修センターまで繰り出します。山車には捻ねじり鉢巻き揃いの法被の六人の演者が乗り込み、笛太鼓を奏でゆつくり動き出します。水田の中道を巡行する様子は、夏の良き風物詩です。9月には運動会が開催されます。国体馬術会場跡の小原運動公園を借用して行い、今年も「あついで熊谷」冠エントリー事業にエントリーしました。14日の秋晴れの日曜日に約200名の老若男女

女が集まり、爽やかな楽しい汗を流しました。体育指導員によるライン引きや準備運動から始まり、進行係の軽快な話術で盛り上がりします。競技参加者には着順毎に異なる景品が渡されます。景品はあちこちの店を婦人部が探し回り購入し、仕分けたことで、競技は混乱もなく進みました。受賞者のニコニコ顔が一ヶ月に及ぶ準備の苦勞を吹き飛ばしてくれました。また、二台のカキ氷器がフル稼働し、5、6杯も食べた笑顔で話す子供もいました。熱中症防止にもなり、操作する汗だくの班長さんの頑張りも報われました。競技終了後には抽選会が行なわれ、入場時に渡された抽選券と読み上げる当り番号に一喜一憂しました。33回目の運動会は、大勢の協力のもとに無事笑顔で終了しました。



板井地区運動会

# 平成 26 年度県外研修

11月5日、全自治会長を対象とした県外研修を新潟県十日町市にて実施しました。今年度は「自治会・集落が主体の共助の取組（主に除雪）」をテーマに、十日町市企画政策課から十日町市の共助の取組の概要について、原田集落安心づくりの会と儀明上組集落安心づくりの会からそれぞれの集落の具体的な取組について、御講演いただきました。



研修会の様子



## ◇十日町市内の自治会・集落が主体の共助の取組の概要について（十日町市企画政策課 村山成明係長）

十日町市は全国有数の豪雪地帯であり、1945年には425cmという最大積雪深の最高値を記録した。公助の取組としては、除雪車で主要幹線道路を除雪するとともに、融雪溝などのインフラ整備を行っている。

共助の取組については、地域の身近な課題を地域住民が自主的・自立的に解決を図ることを目的とした13の「地域自治組織」が重要な役割を担っている。この組織は地域自治に基づく組織運営を行い、地域の意見や要望を集約・調整を行っている。今回ご紹介する集落安心づくり事業は、高齢者世帯等に対して集落ぐるみで支援（雪降ろしや日常の見守りなど）する際に、地域自治組織を通して、必要経費の一部（上限10万円）を助成する制度である。

## ◇原田集落安心づくりの会の活動について（原田集落安心づくりの会 丸山三義代表）

原田集落は26世帯、96人の集落である。会の活動は、主に①要援護世帯などへの支援活動、②集会所など公共施設の維持管理である。①については、高齢者世帯の避難路や市道認定されていない生活道路、通学路の除雪活動を行うほか、日常の見守り活動、年1回の防災訓練を実施している。②については、毎月の集落の常会の際に、清掃・保守作業を行っている。

この事業は、補助金を除雪機の燃料費やオペレーターの賃金として活用できるので、集落の金銭的な負担を軽減することができた。また、自主的に除雪活動をする人も出てきたので、住民の共助の精神を高めることができたと考えている。



## ◇儀明上組集落安心づくりの会の活動について（儀明上組集落安心づくりの会 仲村文弥代表）

儀明集落は51戸、120人の集落である。私たちの集落では、平成16年度より安心づくり事業を開始した。事業開始前は、早朝より各自で自宅前を道付け（雪踏み）していたが、集落の高齢化により外出が難しくなり、日々の新聞配達や急病・火災にも対応できない世帯が出てきたため、この事業に取り組むこととなった。活動内容としては、①避難路の確保と安否確認、②屋根の雪降ろし及び落雪後の処理である。幹線道路の除雪は公助、個人家屋への道の除雪は自助・共助というように、自助・共助・公助をうまく組み合わせて豪雪を克服している。安心づくり事業は、豪雪地において集落自身を存続させ、先祖伝来の地を守り、生き残るための創生事業であると思う。

## <自治会への加入促進に関する協定の締結式>

12月3日(水)、熊谷市自治会連合会、公益社団法人埼玉県宅地建物取引業協会埼玉北支部、熊谷市の三者で「自治会への加入促進に関する協定」を締結しました。この協定は三者が相互に協力し、自治会への加入を促進することで、安心して暮らせる住みよいまちづくりを目指すものです。今後は、公益社団法人埼玉県宅地建物取引業協会埼玉北支部の市内会員事務所を協力店として、転入者や住宅購入者に対して自治会連合会と市が作成した自治会加入促進チラシを配布するとともに、アパート等の新規契約時に自治会への加入の働きかけを行っていただきます。



締結式の様子



加入促進パンフレット

## 平成26年度市長との懇談会

10月7日(火)、熊谷市役所603会議室において、熊谷市自治会連合会会長、副会長及び総務部会員出席のもと、市長との懇談会を開催しました。

嶋田忠男連合会会長があいさつを述べた後、「除雪について」と「防犯灯のLED化」をテーマに市長と懇談し、活発な意見交換が行われました。



懇談会の様子

### 編集後記

昨年のノーベル物理学賞は、青色LEDの発明と実用化に貢献した三人の日本人が受賞し久々の明るい話題に日本中が沸きました。この発明により既存の赤・緑のダイオードと混合する事で少ない電力で完全な白色を再現する事ができ、世界中の人々の生活を变え、新しい産業の創出につながりました。本年、熊谷市は合併から十年の節目の年を迎えます。各地の歴史、文化、風土を尊重しそれぞれの特色を生かしながら、新たな歴史と風土を構築していくことが私達の使命であると思えます。異なる要素が混じり合うことで新たな価値を生み出して行くことの素晴らしさを感じます。

ご寄稿いただいた自治会長の皆様に感謝申し上げますと共に、全自治会の皆様のご活躍とご発展を念じて、ここに「ひろば第17号」をお届けいたします。

熊谷市自治会連合会副会長 宮下良夫

### 訃報

謹んでお悔やみ申し上げますと共にご冥福をお祈り申し上げます。

◆神沼 廣司さん 元町第5自治会長  
平成26年11月10日 逝去